

反核医師の会ニュース

HANKAKU
ISHI no KAI News

Physicians Against Nuclear War (PANW)
核戦争に反対する医師の会
〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-5-5
新宿農協会館 全国保険医団体連合会内
電話 03(3375)5123 FAX 03(3375)1885
e-mail: panw@doc-net.or.jp
http://no-nukes.doc-net.or.jp/

反核医師のつどい in 北海道

—核兵器も核のごみもないピリカアイヌモシリ(美しく静かなる大地)を未来へ—



3年を超えたウクライナへの侵攻、更にはパレスチナ人民への虐殺とも言える侵襲等も加わる世界的平和が脅かされる危機的状況の中、「反核医師のつどい2023 in 北海道」2023年9月23〜24日が開催されました。



平野哲夫 (北海道反核医師の会)

者に勇気と展望を与えてくれたと考えています。新型コロナウイルス禍等のもと、ウクライナへの軍事侵襲の膠着と核兵器の使用の可能性、北東アジアでの軍事緊張、わが国の憲法改悪の動きと軍備拡張と膨大な防衛費増、国内では生活苦の進

33回のうち札幌での開催は三度目ですが、後述の講演・シンポジウム等は、まさに現在の情勢に見合っており200名を超える参加

実行委員長あいさつ

行と民主主義無視の強権的政治、原子力発電の拡大と再稼働・福島原発事故の汚染水海洋投棄・北海道における核のゴミ処理問題の進行等々緊喫な課題が山積し対応を求められ、日本が戦争する国

へと進もうとしている厳しい状況にある中で、つどいであったと考えます。皆様の多大な協力と多数の方々の参加をいただき、各分野のエキスパートの講演やシンポジウムなどを通じ、今後の展望が開けるものとして役立てていただければ幸いです。

色々と至らない点もあつたと思えますが、2024年の沖縄開催での再会を期待し、今後の皆様の益々の活躍とご多幸を願っています。最後になりますが、保団連事務局と北海道医師連からの多大なご支援に厚くお礼を申し上げます。

私がおっしゃっているんじゃない、アメリカの統合参謀本部議長ミリーという人が「戦場で決着がつくことはない。それはあまりにも多くの死者と資金がいる、そんな事はできない。この戦争は外交・交渉の場で決着をつけるしか方法がない」と言っているんです。

「正義」を貫くのかあるいは人命を大事にするのか、ここが大事なんです。ウクライナ問題の他に、台湾問題についても「現状維持が大事で、台湾の人も当面現状のまま」という声も70%以上出ています。この戦争前後と煽ることは止めるべき」と、普段マスクで語られない視点を語った。

大学に勤務し、日本の政治を見て「日米同盟の正体」等を書く中で、今の政府と違うことを言うことが正しいんだと思うようになり、それをやるのが市民として生きる道ではないかと思つて今まで来てしまいました。私たちは第二次世界大戦の後、破壊されて「もう二度と戦争をしない」これが原点だったでしょう。その原点を忘れた今軍力を使わなければいけない」なんて間違っていますよ。この原点をしっかり考えていかなければいけない。その時に今来ていると思います。この言葉を締めくくりにして講演を終えた。

ウクライナ問題を熱論

記念講演

孫崎亨氏 (元外務省国際情報局長)



問題に入り込んでどこに解決策があるか考えなければならぬ。ウクライナ

医師の皆さんには是非本日は聞きたい。安倍晋三氏が撃たれた時、解剖に当たった奈良県立医大の福島教授は解剖直後の記者会見で、「安倍晋三の死因となった弾の入口部は右前額部」と話しています。山上容疑者は安倍の後ろにいて、彼の撃つた弾がどうして前額部に当たるんですか。皆さんと同僚の医師が言った事をどう理解したいんですか、と参加者に問いかけた。

私の提言はきわめて簡単です。1990年ソ連が崩壊したときに約束した、NATOはウクライナに拡大しない、ウクライナ東部4州は民族自治権に基づき、国連監視下で投票して帰属を決めれば良いんですよ。

質問は会場・オンラインから多数寄せられた「元官僚であったのに、何故今のような活動をしているのか」との質問に、ソ連・イラク・イランの大使館勤務をする中で「反体制の人こそ正しいんだ」という認識を持ちました。日本に戻り防衛

た人はびびくりし、「マスクミでは聞けない孫崎さんの話を聞きたい」と道外から駆けつけた方も何人もおられました。(現地実行委員会 福原 正和)

孫崎氏は立ちつばなしで原稿を全く見ない熱弁が50分つきつかりと続きました。

最初に、「核兵器禁止」と叫ぶだけではダメ、ウクライナ問題などその背景にある政治を知らなければ、実効ある反対運動とはならない。とやや挑発的とも言える言葉から始まりました。

ウクライナ戦争がどのようにして始まったのか、ロシアが核兵器を使う可能性があったら、それを使わせないためにどうしたらよいか、現実の

今この日本は世論が見事に操作されている。この戦争でウクライナが勝つことはありませ

みなさん考えて下さい。今最も重要な事、人命を守ることに最大の努力をすべきじゃないんで

「ガンマ線」は紙面の都合上、休載します

**第34回
反核医師のつどい
in 沖縄**

**2024年
11月3日(日)・
4日(月)
開催決定!**

つどい教育講演①

「核抑止」機能せず

川崎哲氏



演者の川崎哲さんは1993年東京大学卒業後... 決して難しい言葉は使わ...

器廃絶日本NGO連絡会共同代表、核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)国際運営委員...

論破していく。まず、核兵器使用を前提とした政策に道徳性はあるのか...

力のある講演であった。核兵器はなくなっていない。しかし1987年より核縮小が始まり7万発から1.2万発に減少...

つどい教育講演②

被爆者運動の継承を

廣田凱氏



このセッションは、年々高齢化し、亡くなる被爆者が増える中で、被爆の実相を語り、核廃絶を訴えて運動を続けてきた...



川去裕子氏

川去裕子さんから、①被爆体験の継承②被爆二世の健康不安要求を行政に要望③被爆と他の被ばく問題... ④再び被爆者を作らないため「核廃絶」に取り組む...

つどいシンポジウムまとめ



シンポジウム会場の様子

司会は、松崎道幸(北海道反核医師・歯科医師の会代表委員)、佐原若子(全国反核医師の会常任世話人、青森)が共同でつとめた。

宮尾正大氏



①宮尾正大さん(室蘭工業大学名誉教授)は「日本の原発政策の変遷と今後」と題して、核兵器製造と原発が軍事的、経済的に実に深いつながりを持っていることを解明された。

て、福島事故後も、その「夢」にしがみついている姿をあぶりだした。原発維持は「再生エネルギー」と最も相性の悪い発電方式」であると喝破。政府、世論、経済界に粘り強く働きかけて、原発ゼロを多数派とする取り組みが必要と結ばれた。

三木信香氏



②三木信香さん(子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会共同代表)は、2020年8月に北海道寿都町長が、いわゆる「核のゴミ」の処分地を選定する「文献調査」に応募したことに對して、いち早く町民の会を立ち上げた運動の経験を語った。3年弱の間に、町民の4分の1を超える695名の反対署名、住民投票条例運動、小泉元首相を招き430名の大後援会を実施、議事録開示訴訟での勝利、町議選をたたかい、ホームページ、50号近くの会報発行などを行い、カラフルかつ柔軟に運動を進めていることが報告された。どのような街づくりが必要かという視点で、賛否にかかわらず多くの人々を包含する運動を進めたいという決意表明で結ばれた。

澤井正子氏



③澤井正子さん(核燃サイクル阻止1万人訴訟原告団運営委員)は「核燃料サイクルの破綻と廃棄物問題」と題して、すでに「詰んでいる」日本の核燃料サイクルの現状を詳しく説明頂いた。何よりもプルトニウムを増やす「高速増殖炉(もんじゅ)」開発に失敗したことが、「サイクル(輪)」の破綻につながったことと結んだ。

④講演予定の西尾正道さん(北海道がんセンター1名誉院長)の御講演は体調不良のため中止となった。大部の講演資料を提出しておられたので参照していただきたい。(松崎道幸)

ついで交流企画

「いっぽプロジェクト」開始

河野絵理子(長野中央病院総合診療科専攻医)



第33回反核医師のついで in北海道で、医系学生と若手医療者の交流企画を行いました。事前には、各地間を集め、当日は若手医

開始

でついでに参加した若手医療者にとって安心できる場所になりたい、という思いがありました。8月から何度も話し合

当日の交流企画にはオンライン合わせておよそ30名が参加しました。長崎で被爆状況の調べ学習

和の一步」としました。「いっぽプロジェクト」と呼んでください。閉会

クシヨンは。会議までに世論を高め、日本政府のオプザバー参加を求め

「いっぽプロジェクト」各種SNSのQRコードは4面に掲載

反核医師のついで in北海道感想

in北海道感想

沼口護(福島県立医科大学医学部4年)



こんにちは。先日は学生という立場ながら、先生方の集まり「反核医師のついでin北海道」に参加

部会からは4人が参加しました。一番に残っているのは、若手医療者の集いと交流会です。先生方に加え、医学生や事務

ゼミで分科会を出したと、1月広島と5月長崎とFWを主催したことを中心に、活動紹介を行うことが出来ました。今後も

行かないし、はっきり支持する政党があるわけでは

は、なぜ福島第一原発による汚染土の受け入れ先

IPPNW 世界大会の報告

信州大学医学部医学科5年 田村大地

2023年春、第23回IPPNW世界大会に参加するため、初めてケニアを訪れました。3ヶ月間は、若手医師や医学生で構成されており、寝食を共にする中であつという間に不安が消えるほど仲間

私は、大会前5日間のBike Tourから参加しました。ケニアの首都ナイロビから沿岸部

にある会場のモンバサマ

で、約500km大自然の中を自転車で行くとい

う、後にも先にもないよ

いまして、世界規模でもよく行われている活動

であること

を知り、心強く思うと同時に仲間

をつくる良い機会となりました。

会場に着いた後には4月26日にStudent Congressが行われ

ました。各国での学生の取り組み

が紹介され、核廃絶の取り組み

が紹介され、核廃絶の取り組み

が紹介され、核廃絶の取り組み

が紹介され、核廃絶の取り組み

が紹介され、核廃絶の取り組み

が紹介され、核廃絶の取り組み

が紹介され、核廃絶の取り組み

が紹介され、核廃絶の取り組み

が紹介され、核廃絶の取り組み

が紹介され、核廃絶の取り組み

が紹介され、核廃絶の取り組み

が紹介され、核廃絶の取り組み

が紹介され、核廃絶の取り組み

が紹介され、核廃絶の取り組み

が紹介され、核廃絶の取り組み

が紹介され、核廃絶の取り組み

が紹介され、核廃絶の取り組み

が紹介され、核廃絶の取り組み

が紹介され、核廃絶の取り組み



大会には各国から学生が参加。田村氏は前列左から2番目

ケニアで開催された大会だったからこそ、鉱山で働く労働者や女性、子どもに対して放射性物質の与える影響があること、劣悪な労働環境で核保有

また、全体を通して、年齢層・役割・地域・人種が異なる中でも、権威勾配など一切感じることなく、知識や活動量の差を気にすることなく対等

核兵器にお金を貸すな Don't Bank On the Bomb

厚労省・りそなと懇談

近畿反核医師懇談会は「Don't Bank On the Bomb (DBOB) / 核兵器にお金を貸すな」の取り組みの一環として、9月7日に厚労省及びりそなHDと懇談を行なった。厚労省との懇談では、年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)が3879・8万ドルを核兵器製造企業に投融資しているという核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)の調査報告を指摘。これに対し厚労省は反社会的勢力や人権侵害に関連する企業等への投資は国際条約や国内の法令・条例で禁止されているが、そうでなければ個別企業への投融資を排除するのは他事考慮禁止が原則なので不可能と回答。りそなHDとの懇談では、ICANとPAXが例年発行するレポートにおいて、りそなHDが「核兵器製造企業とのあらゆる金融的関与を行わない」という包括的な方針はとっていないものの、核兵器製造企業を投融資対象から除外する措置をとっている」として日本の金融機関で初めてRunners-Up (次点)の評価を受けたことに対し、近畿反核医師懇談会より活動の励みになると謝意を伝えるとともに、「栄誉の殿堂」入りにはまだ核製造企業への「投資の抜け道」があるので、できるだけ早く改善してほしいこと、エチカ・ファンドが呼びかける核兵器製造企業への投融資をしないことなどを宣言する公開声明に加わってほしいことを伝えた。りそなHD側は「栄え

近畿反核医師懇談会

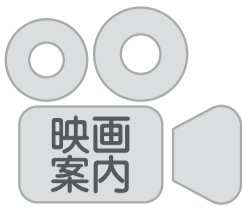
ある評価に対して、感謝申し上げたい。改めて身の引き締まる思い」とした上で、「投資の抜け道」については「訴求調査を社内で行い、パッシブ運用やアセットオーナー様から個別に運用ガイドライン等の指定があった場合には、排除することに限界があり、業界全体で輪を広げていかない」となかなか実現しないという問題がある」とした。公開声明については「趣旨には賛成できるが、核兵器のない世界を実現していくために、保管技術などへの投融資をどう考えるかなど、社会でまだ検討が必要な状況」との回答だったため、近畿反核医師の会より改めて賛同の検討を呼びかけた。

特別企画を開催

10月8日には特別企画を開催し、WEB含め17人が参加。「Don't Bank On the Bomb」核兵器にお金を貸すな「イタリヤ・ファンドの挑戦」をテーマに、アルド・ボナティ・Etica Funds (エチカ・ファンド) 財産管理&ESG ネットワークマネージャーが講演した。



アルド氏は核兵器禁止条約について、エチカ・ファンドは一般市民への意識啓発、条約採択の推進をICANとともにめざしており、その具体的な取り組みとしてTPNWに関する投資家声明をICANとともに作成し、昨年からの世界機関投資家に署名を呼びかけていると紹介。また日本企業との賛同はないが、早急に署名をしてほしいと呼びかけた。また、ICAN・PAXレポートによると、核兵器製造企業は24企業のみで、それらの企業はクラスター弾や対地雷も製造しており、すでに金融機関が投資対象から除外していることが多く、企業数が少ないため排除しても運用成績には影響が少ないことも紹介。将来は核兵器製造企業に投資しないことが規範となる世界をつくりたいと訴えた。(DBOBキャンペーン事務局長 松井和夫)



映画 「福田村事件」

2023年公開

森 達也 監督作品

関東大震災から百年の今年公開の、実話に基づいた話題作である。地震後に流言飛語が飛び交い、朝鮮半島・中国大陸出身者の虐殺が相次ぎ、便乗するように日本人の無政府主義者・社会主義者が弾圧されたことは(認めない者がいるにせよ)よく知られた史実である。だが、香川から訪れた商人の一行が朝鮮人と間違われ、自衛団に虐殺された「福田村事件」については、記録も乏しく、関係者が口を閉ざす中で、この映画で初めて知った人も少なくないだろう。物語の前半は、震災前の日常が複数の視点から淡々と描かれ続ける。数日後に大事件が起こることを知る者には、いら立ちを感じさせるほど牧歌的な福田村。虐殺される商人一行の道中。誠実な報道を志す新聞記者と、思想信条のために投獄・拷問される劇作家。これら複数の視点から、当時の日本では警察権力や報道機関が朝鮮半島出身者を潜在的な犯罪者の如く一般市民に印象付けていたことが示される。そして、通りすがりの朝鮮人少女を気に掛ける商人、出自が被差別部落である彼のヒューマンズムは、自らの虐殺の引き金となる一言に繋がる。「朝鮮人なら殺してええんか」

映画「福田村事件」(「福田村事件」プロジェクト)より



会費納入のおねがい

反核医師の会は、会員のみなさまの会費と、主旨に賛同いただいている募金によって運営しています。2024年は第20回全国大会の他、「つどい in 沖縄」を11月3日～4日に開催するなどの取り組みが予定されています。2023年度(2023年4月1日～2024年3月31日)の会費納入のほど、よろしくお願いいたします。

- 個人会員 (医師・歯科医師、医学者) 10,000円
- 研修医 (卒後2年まで) 3,000円
- 医・歯学生会員 1,000円
- 賛助会員 1,000円

振込先
 ◇りそな銀行新都心営業部普通1557502
 「反核医師・医学者の集い」
 ◇ゆうちょ銀行 (他銀行からの振り込みの場合)
 ○一九支店 当座0056764 「反核医師・医学者の集い」
 ◇郵便振替00170-7-56764 「反核医師・医学者の集い」

【お知らせ】

先日の反核医師のつどい in 北海道で発足した若手医療者による「いっぽプロジェクト (ABC for Peace) (A=action, B=bridge, C=healthCare Workers)、平和の一步」ですが、遂にSNSが始動しました。ぜひ、ご登録いただき、周知・拡散のご協力をいただけると幸いです。



Facebook



Instagram



X (旧: Twitter)



YouTube